再利用対象となるコンポーネントの作成

サンプルコード: main.ts

main.ts の import を理解する

import App from "./App.vue"とは、コンポーネントのオブジェクトを import していることと同義。

- App.vue はtemplateとscriptとstyleから成り立っている単一ファイルコンポーネント
- コンポーネントの一種
- コンポーネントはオブジェクト
- 3 つのエリアに分かれているvueファイルをインポートすることで 1 つのオブジェクトになる
- そもそも vue ファイルは一般的には使えないがなぜ使えるか?
 - Vue-cli の中で webpack(バンドルツール)動いており、その中の vue-loader がオブジェクト にコンパイルしている

vueファイルはimportをすると最終的にコンポーネントのオブジェクトになる

ワーク1

実際にコンソールログを確認し、Appの中身を確認しよう

```
import Vue from "vue";
import App from "./App.vue";
import CompuedWatch from "./components/ComputedWatch.vue";
Vue.config.productionTip = false;
console.log(App);
new Vue({
   render: (h) => h(App),
}).$mount("#app");
```

App.vue の中身を確認する

• 他のVueファイルをインポートしている

```
import ComputedWatch from "./components/ComputedWatch.vue";
import OriginalFilter from "./components/OriginalFiltter.vue";
```

import すると vue ファイルはオブジェクトになる

• **コンポーネントとして登録**している

```
@Component({
   components: {
     Directive,
     ComputedWatch,
     OriginalFilter,
   },
})
```

以下の書き方の省略系(つまりオブジェクトとして扱っている) オブジェクトにおいてキーと値 が同じであれば省略できる

```
@Component({
   components: {
      Directive:Directive,
      ComputedWatch:ComputedWatch,
      OriginalFilter:OriginalFilter,
      },
})
```

• 登録した DOM テンプレートを使用する

```
<h2>算出プロパティとウォッチャ</h2>
<ComputedWatch></ComputedWatch>
<h2>フィルター</h2>
<OriginalFilter></OriginalFilter>
```

再利用対象となるコンポーネント

- vue ファイルで単一ファイルコンポーネントを作成
- 別の vue ファイルに import する
- import した vue ファイルをコンポーネントとして登録

上記の手順を踏むことで、再利用対象となるコンポーネントを作成し、使用することができる

コンポーネントは基本的にcomponentsフォルダにまとめることが一般的